

# 奮闘の日々 20代のフレッシュパーソン

医療法人偕行会（本部名古屋市中川区）が運営する城西病院（名古屋市中村区）地域医療連携部総合相談窓口課で音楽療法士兼事務員として勤務する赤塚望さん（27）は、2019年4月に入社した。音楽療法とは、楽器演奏などで心身機能維持・改善をもたらすリハビリテーションの一種。赤塚さんはピアノやギターの弾き語りなどで、高齢者を中心に音楽療法プログラムを届けている。

中学校から高校まで、吹奏楽部に所属。演奏会で、音楽によって人々が笑顔になる姿を見て、音楽に携わる仕事が見たいと決意した。高校の担

医療法人偕行会 城西病院  
地域医療連携部総合相談窓口課

## 赤塚 望さん

あかつか・のぞみ

任から提案され、音楽療法を専門に学べる市内の音楽大学に入学。日本音楽療法学会が認定する音楽療法士となった。

現在、週に1度、病院の1階ロビーで開かれる「認知症カフェ」を始め、さまざまなプログラムを届けている。

これまでで最も印象に残った出来事は「声が出づらかった患者さんが、プログラムの参加を通して、はっきりと話せるようになったこと」だと話す。「胃ろうによって栄養を摂取していた方だったが、ゼリーを口から食べられるようになった」と体調の回復を喜んだ。

赤塚さんが心掛けるのは「リクエストには迅速に応える」ことだ。リクエストされた翌週には披露できるように練習している。「参加者は

## 音楽療法で笑顔届けたい

高齢の方が多く、体調悪化などでその後の参加が難しくなることもある。なるべく早く届けたい」と熱く語った。

22年、音楽療法を題材にしたドキュメンタリー映画の撮影に協力した。「映画では、音楽療法を実施する様子や患者さんの表情などを記録していた。認知が進んでいない部分があるが、映画を通して、多くの方に知っていただけたら」と話す。



病院のロビーで演奏する赤塚さん

（毎週火曜日に掲載）